

児童アンケートのまとめと解説

大阪市立市岡小学校

「○」は成果を表しています。「●」は課題を表しています。

1. 学校に来るのは楽しい

- 全校児童の80%の児童が、肯定的に回答しています。多くの行事が中止や形を変えての実施という、子どもたちにとって行事を通した達成感や成就感を感じ取らせにくい、現在の「コロナ禍」の状況の中でこの数字は評価できるものと考えます。
- しかし、まだまだ否定的な回答をしている子どもたちもいます。より多くの子どもたちが「学校に来ることはは楽しい」と感じられるよう、学力の向上、体力の向上、集団育成、一人一人の達成感を高めていく取り組みを進めていきます。

2. 学校の授業はわかりやすい。

- 全校児童の88%の児童が、肯定的に回答しています。
- 今後とも、学習のユニバーサルデザイン化を全校で研究しながら、すべての子どもたちにとってわかりやすい授業づくりを行います。

3. 学校のきまりやルールを守っている。

- 全校児童の83%の児童が、肯定的に回答しています。各学級で取り組んでいる「市岡小学校みんなの笑顔・安心ルール」の達成率が82%であることを考えると、この割合は妥当だと思われます。
- 高学年になるほど、守っていないと答えている児童が増加傾向にあります。実際には、高学年になるほど自己認識ができるようになります。また、成長に合わせて教員からの指摘や指導も厳しくなります。そのため、肯定的回答は低くなる傾向にあります。さらに子どもたちへの指導と家庭への協力依頼によって、肯定的に回答できる児童が全校の90%を超えるように取り組んでいきます。

4. 休み時間は運動場で遊んでいる

- 全校児童の73%の児童が、肯定的に回答しています。
- 中学年（3・4年生）から、否定的回答の児童が増えてきます。

5. 本を読むことが好きだ。

- 全体では、約70%の児童が肯定的に回答しています。
- 好きだと答えている児童の割合は、学年・学級でばらつきがあります。

6. 給食は残さず食べるようにしている。

- 2年生・5年生を除いて、肯定的回答をした児童は90%を超えています。
- 今後も、子どもたちの体調に気をつけながら、栄養指導の面から取り組んでいきます。ご家庭においても、望ましい食べ方やマナーなどのご指導をお願いいたします。

7. 授業中、自分の考え方や意見を、全体やグループの中で発表することができている。

- 学習指導要領の改訂に伴い、今年度より「主体的・対話的で深い学び」が求められています。本校においても、各学級で、これまでの「聞く」「考える」「発表する」という授業だけではなく、「調べる」「話し合う」「見つける」という授業に取り組んでいます。その結果が、肯定的回答が70%程度になっています。
- 校内での研究活動をさらに推進し、もっと意見や考えが出せる授業づくりを行うようにしていきます。

8. クラスでは一人一人が意見を出し合って、みんなが協力している。

- 設問7と同じような傾向が見られます。全体では約8割の児童が肯定的回答をしています。
- 今、多くの学級で安心ルールとして「あったか言葉」を使おうという取組みが進められています。一人一人が意見を出し合って、みんなが協力するためには、学級内に一人一人を認め合い、高め合う雰囲気が必要になります。
今後も、各学級での取組みを強めていきたいと思います。

9. 授業中は、他の人と話し合いながら、自分の考え方を深めたり、広げたりすることができている。

- 肯定的回答をした児童が、やはり70%程度になっています。その分布を見ると設問7・8と同じような傾向になっています。
- 学校全体を通して、話し合いの基本(話し方、マナーなど)をより徹底しながら、今後も取り組んでいきたいと思います。

10. 自分のことが好きだ。

11. 自分にはよいところがあると思う。

自己肯定感とは、自分の存在を肯定的に受け止められる感覚のことです。自己肯定感が高いと感情が安定し、人生で起きるさまざまなことをポジティブにとらえられます。反対に、自己肯定感の低い人は「自分なんてダメだ」という感覚にとらわれ、ネガティブになりがちです。

この自己肯定感が低いと次のような傾向が現れると言われています。

- ・以前の失敗を気にしすぎる。
- ・他人との比較や劣等感の意識が強い。
- ・すぐに「できない」と思ってしまう。
- ・周囲への依存度が強い。
- ・人のために頑張ることができない

- ⑩は自己肯定感を問う設問です。回答者450名のうち、270名を超える児童が、肯定的に回答しています。
- ⑪は自己肯定感の中でも、他者から認められることによって生じる「自己有用感」を問う設問です。全回答者のうち313名が肯定的に回答しています。
- 本校では、今後も一人一人の自己肯定感が高まるよう、子ども一人一人を大切にするとともに、学習中だけでなく、さまざまな活動において子どもたちが達成感や

成就感を持つことができるように支えていきます。

12. 少し難しいことや苦手な事にも挑戦することができている。

- 学年が進むほどに、難しいと感じることや、苦手なことが自分ではっきりわかってきて、そこから逃げる傾向の子どももいますが、高学年でも7割から8割の児童が挑戦しようとがんばっています。
- 難しいと感じることや、苦手なことに挑戦するためには、失敗しても大丈夫だという安心感が必要です。また、自己肯定感とも関係しています。これからも、教職員の支援だけでなく子どもたちが所属する学級・学年集団の中で、安心してがんばれるように取り組んでいきます。

13. 自分の間違いは素直に認めて直している

- 自分の間違いを素直に認めるのは、大人になると、とてもむずかしいことです。でも、これができるないと自己を改善することはできません。だから学校では間違ったときにまちがいを認められるように指導しています。しかし、この項目に否定的回答をした子どもたちが全校で20%います。
- 小学生の子どもたちは、入学時と卒業時では、全く違うほどに成長しています。特に、集団の中ではいろいろタイプの個性を持った子どもがいて、日々、自我をぶつけ合っています。これからも学校では、一人一人の状況をしっかりととらえながら取り組んでいきます。

14. 先生によくほめられる

- 肯定的対否定的が、6対4です。学校では、この数字に表された現実を厳しく受け止めています。
- 結果を褒めるだけでなく、努力の過程をまずほめていきたいと考えています。さらに、日常の「ちょっとよい」行動をタイムリーにほめていきたいと思います。

15. 進んであいさつをしている

- あいさつを、学級の安心ルールにあげている学級もあり、進んであいさつをする習慣が身についてきています。特に、朝、「校長先生、おはようございます」と言ってくれる子どもたちが増え、寒い朝でも、心はぽかぽかとあったまります。全校の80%の子どもたちが肯定的に回答しています。
- これからも、低学年のうちから元気にしっかりあいさつができるように働きかけ、習慣として定着させていきたいと思います。

16. 給食の前には必ず石鹼で手を洗っている

- コロナ禍の中で、各学級では、しっかり取り組んでいる結果です。
- これからもみんなで取り組んでいきます。